

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992700070		
法人名	(株)オガワ		
事業所名	アットホームいちはな		
所在地	栃木県芳賀郡市貝町大字市塙1601-1		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?OpenAgent
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人International Social Service CultureCenter
所在地	栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木1099-1
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は市貝町の中心部に位置し幹線道路沿いにあるという立地もあり、近隣住民との交流が行いやすく地域の行事等にも積極的に参加している。本年は新型コロナウイルス感染防止のため交流等は中止にしているが、笑顔と親切をモットーに掲げ、明るい対応・入居者本位の対応を常に心がけ、入居者が希望や要望に沿った生活を送ることが出来るよう支援している。居室も今までの生活パターンを尊重し、できる限り今までで使用していた家具や寝具を持ち込んでいただき、レイアウトも入居の際に入居者本人やご家族に自由に決めていただいている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は県東に位置し、町の中心部にある開設9年目の2ユニットのグループホームである。共有空間は季節感を取り入れ、温かみを感じられるよう工夫がされている。利用者に対して、自宅での生活パターンの継続性を大切にされた様々な支援を行っている。利用者一人ひとりを十分に見守り、適切な言葉かけを大切にしている。また、エンディングノートを活用し利用者の意向や思いを尊重して、外出支援等に取り組んでいる。職員も利用者と共に寄り添い、明るく楽しみのあるホームである。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、交流や外出等の活動は自粛している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関に事業所の理念を掲げ、ミーティング時等に職員再確認の機会をつくっている。	事業所理念「笑顔とおもいやり・信頼」を掲げ、職員ミーティングなどで再確認し、毎日のケア実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に入会しており、地域の行事に参加したり、施設の行事にも地域や町外の方に参加していただいている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染防止のため、交流等は中止にしている。	自治会に加入しており、地域の秋祭り、ゴミ拾い等地域の行事に積極的に参加するなど地域との交流を積極的に取り組んでいる。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、交流等は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティアの方の来所時、行事の時に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でいただいた提案を元に利用者や代表者の意見を参考にし、すぐに実行し成果を次回の会議に報告する仕組みをつくっている。本年は、新型コロナウイルス感染防止のため書面で実施し、町に提出している。	運営推進会議は2カ月に1回開催され、構成メンバーは自治会長・民生委員・家族代表・包括センター職員・町職員であり、会議ではホームの活動状況の報告・各委員からの意見により討議し、利用者のサービス向上を図っている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染防止のため書面で行い、行政に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場健康福祉課や地域包括職員と密に連絡、相談している。	役場が施設の近くにある環境のため、町との連携が図られており、日頃より町担当者からの助言を得ながらサービスの質の向上に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルをもとにして職員教育をしている。またケアカンファレンスの際に身体拘束を伴わないケアが行えるような対応策を打ち出している。	事業所として、身体拘束廃止防止の独自のマニュアルを作成し、全職員が研修を行い理解を深め、実践に活かしている。日中は玄関に鍵をかけない生活をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに職員が理解し合えるようお互いに話し合え、注意しやすい環境づくりに努めている。また、ニュースなどで虐待事件が取上げられた時に職員で話し合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の案件について社協や役場、地域包括と協議行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や重要事項説明書に沿って説明し、その旨で不安点や疑問点をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議時にお伺いしている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染防止のため、一時自粛している。	家族の面会や行事の際に職員が家族の意見や要望を傾聴し、対処できるところは話し合いを行い、職員間で共有して運営に反映されている。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、自粛している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員全体会議や主任会議、毎日のミーティング時に職員が意見や提案をできる機会を作っている。	毎日の申し送り時や毎月の職員全体会議・主任会議において職員の要望や意見を聴き、話し合える機会を設けながらサービスの向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や有給、産前産後等の休暇の取得。 パート職員にも有給休暇が取得出来るようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修への参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議への参加や外部研修への参加の機会を積極的につくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込み時や契約時、ケアプラン作成の際に本人の入居後の生活への要望や意向を本人や家族に聞き取る機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時や契約時、ケアプラン作成の際に本人の入居後の生活への要望や意向を本人や家族に聞き取る機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前調査の際や入居申込み時に状態確認と聞き取りを行い判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態に合わせて、ご自分でできることは本人にやっていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会、通院、外出や外泊の機会を促しているが、本年は新型コロナウイルス感染防止のため、外出・外泊等を自粛している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	エンディングノートを活用し、思い出の地へ行ったり、昔からの知人等に会えるような取り組みをしている。本年は新型コロナウイルス感染防止のため、交流等は自粛している。	エンディングノートを活用し、利用者が以前利用したお店に出掛けたりと、要望に沿った支援をしている。また、家族の協力を得ながら利用者の友人への訪問など、積極的に馴染みの人や場所が継続できる支援を行っている。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、一時中止としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性やADL等を考慮しながら状況に合わせて調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も相談等を受け付ける旨を退所時にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の要望を聞き取ったり、家族の来所時に家族の要望を聞き、ケアプランの中に盛り込んでいる。	日々の関わりや本人の行動・家族からの意向を把握するよう努めており、把握したことについては職員全体会議等を通じて職員全員に周知し、共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時や入居前の事前訪問の際にできるだけ詳しく聞き取りし、入居後の生活に反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や申し送りで健康状態を把握した上で本人の意思を尊重しながら個々に合った生活を送ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やカンファレンスの中で、最もその人らしさを表現出来るよう職員全員でアイデアを出し合い、本人や家族の要望を取り入れながら介護計画を作成している。	管理者や介護支援専門員が利用者や家族に十分なアセスメントをしている。また、利用者の状況の変化が見られた時は家族と話し合い、担当者会議を実施して計画書の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに日々の状態を把握し介護計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に当施設でできるサービスしか提供していないが、入居者の状態により他施設等の紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居される前に利用していた店や病院などに入居後も定期的に利用出来るよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通院していた病院に入居後も継続で受診出来るようにしている。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。また、訪問看護事業を活用し週1回の訪問時のアドバイスや協力病院の医師の往診も、月2回と定例化されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、毎週月曜日に看護師に来て頂き入居者の状態を伝え共有しながらアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月2回協力病院のDrに来て頂き、入居者の体調相談、アドバイスを受けている。また、入居者が入院された際は定期的に訪問し、状態の把握と退院の調整等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできることとできないことを事前に説明している。その上で他施設への転所の相談や入院の際のお手伝いをしている。	利用時に重度化した場合の対応について、契約時に事前に本人・家族に説明を行い、同意のうえ理解を得ている。事業所では他施設への転所等についても支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに内部研修を行い、急変時や事故発生時に迅速に対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで定期的に避難訓練を行っている。	昼夜想定防災訓練を、消防署が立ち合いのもと年2回実施している。また、備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に合った対応と環境に配慮している。	利用者一人ひとりの人格を生活歴等を尊重し、言葉遣いや声かけ等に配慮して、日常の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食や出前などの時に本人に食べたいものを決めてもらったりしているが、本年は新型コロナウイルス感染防止のため、外食等は中止としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間は決まっているが、それ以外の時間は基本的に自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んでもらい着ていただいている。定期的に訪問理容室が来所し、散髪や色染め等をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器洗いなどお手伝いしていただいている。 入所される前に自宅でよくつくっていたものを一緒につくる機会をつくった。	季節感あるメニューを心がけ、利用者と一緒に調理や片付けを行っている。職員も同席し、利用者との会話をしながら食事を楽しむ雰囲気づくりを行っている。また、行事食も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合せた食事形態での提供や、必要水分量がなかなか摂れない方には好みの飲料の提供でできるだけ必要分の摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、11月～3月まで感染症予防のため朝と夕の2回うがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツに頼らないよう定時でのトイレ誘導、声掛け対応している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表により排泄パターンを把握して、日中は何気ない声かけを行い、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。夜間はオムツやポータブルトイレを併用した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や適切な水分量の摂取、腹部マッサージで便秘の予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上入浴の機会を設けている。それ以外の入浴希望者には随時対応している。	毎日の入浴が可能になっており、利用者の希望に沿って入浴支援を行っている。また、利用者の要望により夜間の入浴も可能な体制を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態や希望に合わせて時間を問わず自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットごとの内服薬一覧表や、誤薬防止のために服薬チェック表設けてダブルチェックを行っている。医療機関への受診時やDr往診時に状態に合せた内服薬の見直しをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	同系列の事業所へ行き将棋をさしたり、季節に応じて門松づくりや野菜作り、日曜大工などを行っていただけた。また職員と一緒にうどんやラーメンを作る機会を設けた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望時に外出や外泊に協力している。またエンディングノートの活用で職員と思いの地や家族や兄弟、友人などの家に訪問していたが、本年は新型コロナウイルス感染防止のため、一時中止とした。	利用者の要望により外出支援を行っており、日常的に買い物や近隣にある駅・役場周辺等の散歩をしている。また、ドライブにより遠方に出掛けており、利用者の希望に応じた外出支援を行っている。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、外出・外食等は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設受理で現金をお預かりしており、希望時に買い物に行ったり、訪問販売のヤクルト等購入されている。数名の方は現金を直管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分からは手紙を出す方はいないが、遠方の家族や友人から手紙がきたりしている。必要な時は施設の電話をお貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自然の採光を生かし、明るすぎず暗すぎないよう照明の工夫をしている。温度も季節ごとに設定して一定に保たれている。	共有空間には利用者手づくりの作品を飾り、季節感を取り入れ温かみを感じる空間となっている。清掃も行き届き、清潔感が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自由に居室で過ごされることも可能。入居者どうしの居室の行き来も可能となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用されていた家具や寝具をそのまま持ち込んで頂くよう入居前に説明し、家具類の配置も本人や家族にお任せしている。	利用者の馴染みの物が自由に持ち込まれており、自宅と同じような環境を職員と一緒に作り、利用者が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に洗濯物等を干したいと希望な方はS字フックを使用して手の届く位置にセットし自己管理していただいている。 外れたネジを自分で止めていただいたりしている。		